アンリエツトの転地療養日記

岸田國士

青空文庫

二月三日（水曜）曇
いよいよ巴里（パリー）を離れることになつた。
朝八時、タクシイで、ケエ・ドルセエの停車場に行く。寒い。
病気で転地療養をするのに、大袈裟な用意なんかする必要はないといふパパの意見。
それでも、あゝいふ人の集るところだから、トアレツトのひと通りはといふママの意見。
ルイズ叔母さまも、ママの肩をおもちになる。
汽車の中で、正午の体温を計る。三十七度四分、気分はいゝけれど、顔がほてる。ママがのべつに「大丈夫かい」「大丈夫かい」つておつしやるもんで、ほかの人達がぢろぢろあたしの顔を見て困る。ママの膝にもたれて眠つたふりをしてゐる。
ボルドオに着いたら、日が暮れてゐた。乗換の時、前にゐた亜米利加（アメリカ）人が荷物をおろしてくれる。
二月四日（木曜）晴
朝、寝台車の窓から、霧に包まれたピレネエの山が見える。
七時、ポオに着く。はじめて、カメリヤが咲いてゐるところを見る。
外套を脱ぎたいほどの暖かさ。日光が眩しい。
馬車で、町はづれのサナトリウム・サン・モオルへ行く。

あたしたちが案内されたのは、西班牙(スペイン)風の建物の下の一室で、建物の入口には、ヴイラ・セリユバンといふ札が出てゐる。

二月十八日（木曜）雨後晴

今日はじめて、一人で散歩をする。

公園へ行つて孔雀が飛んでゐるのを見たり、野菜市場で聞きなれない土地の方言に耳を傾けたりする。

それから、アンリ四世のお城を一と廻りして、ホテル・ド・ラ・フランスの前まで来ると、ばつたり、ムツシユウ・ロベエルに遇つた。明日、馬車で、「微笑みの谷(ヴアレエ・スウリヤント)」へ連れてつてやるとおつしやる。

ムツシユウ・ロベエルは、詩を書いてらつしやるだけあつて、美しい「微笑みの谷」の眺めを、眼に見えるやうに説明なさる、言葉ははつきり覚えてないけれど、冬の眠りから醒めようとする自然が、微笑みをもつてわれわれを迎へてくれる、明るい、懐かしい谷の名だといふお話。

帰つて、ママにそのことを云ふと、あたしの顔をぢつと見つめながら、「あたしも一緒に行つてよければ……」とおつしやる。

二月二十七日（日曜）晴

急に巴里に帰ることになつた。
熱は下つたのだけれど、院長さんはもう少しゐた方がよからうとおつしやるのを、なぜだか、
ママは是非今日発たうと言つてきかない。それが昨日の話。
あたしはもつと此処にゐたい。一生でもいゝからゐたい。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集21」岩波書店
　1990（平成2）年7月9日発行
底本の親本：「令女界　第八巻第二号」
　1929（昭和4）年2月1日発行
初出：「令女界　第八巻第二号」
　1929（昭和4）年2月1日発行
入力：tatsuki
校正：門田裕志
2007年11月14日作成
2016年5月12日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

アンリエツトの転地療養日記

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/